

北信斎場「たびだちの森」

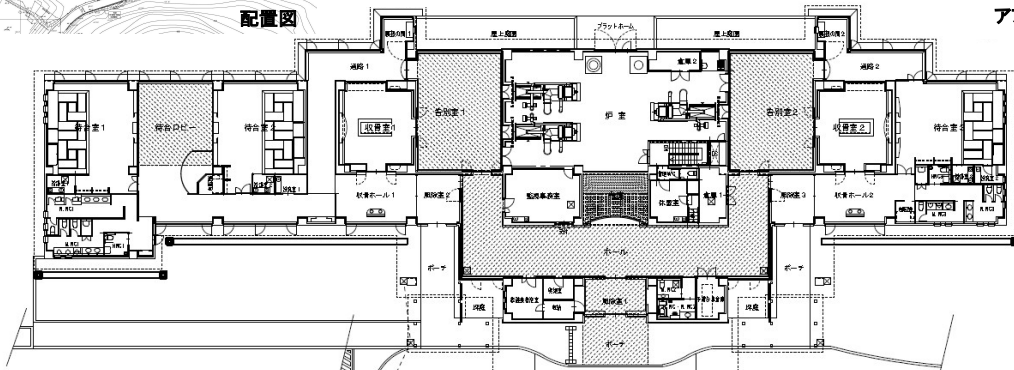
傾斜地に風景に溶け込む情景がつくられた斎場



自然の中に鎮座する火葬場

アプローチシーン

配置図



平面図

計画概要

忘れがたきふるさと

北信斎場は中野市の中心市街から北西部にあり、国道 117 号線に接続する市道大沢幹線沿いの高台に立地する。

既存施設の老朽化・ユニバーサルデザイン等の要望に伴い、新天地に新築された。近年の町村合併による変遷もあるが現在では 1 市 3 町による広域の施設である。中野市は唱歌、故郷を作詞した高野辰之の生誕の地である。

高社山や、志賀高原を望める穏やかな傾斜が千曲川へとつながる里山の風景には、この地ならではのふるさとの情景を感じ取ることができる。

このふるさとの自然の中で、故人を悼み、遺族を弔い、冥福を祈る神聖な儀式の場として「郷土の風景の中で見送る、自然に還す」という葬送の本質に立ち返り、静かで精神性の高い「葬送の場」を目指したいと考えた。

風景に溶け込む情景をつくる

全体的な施設構成は、火葬場という施設に対する特殊感情や穏やかな傾斜地からの眺めに配慮し、自然と融和することを心掛けた。傾斜地であることを活かし、炉の機械室を地階レベルに設置し、立体的に構成することで、施設のボリュームを低層に抑え、造成費用に加え建設コストの削減にも寄与する計画とした。

外観に特徴をもたらす屋根形状は、多雪地域であることや地域性を考慮し、日本の伝統様式である切妻型の伝統様式を基本に、棟の位置を変えることにより、施設全体の大きさを感じさせないよう意図した。

また、施設へのアプローチに際しても、会葬者の心情に寄り添い、前面道路から植栽越しに見え隠れするよう、導入路を湾曲させ、のり面や木立の中をアプローチし、葬送の場のプロローグ空間として演出を試みた。

個別化とユニット化

施設は、火葬棟を中心に両側に待合棟を配した。会葬者が他の会葬者と極力遭遇することが無いよう会葬者の心情を思いはかる斎場として遺族の『個』を大切にしたいと考えたからだ。具体的には炉室のある火葬棟の両側に告別室、収骨室を配置し、それぞれが待合室と連携する。

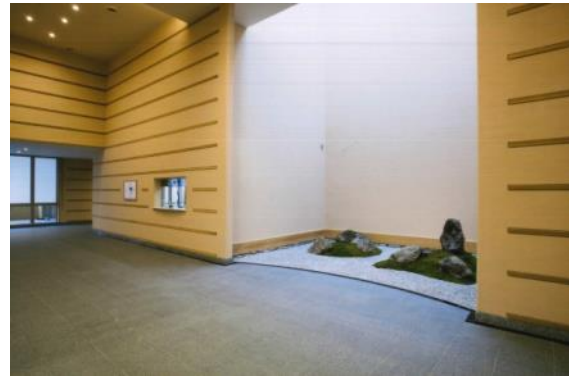
入口は正面の一角所だが、出口は待合棟それぞれに設けることにより会葬者同士が干渉することがない計画とした。

また、炉の近くには、『瞑想の間』を設けたことも特徴である。深い悲しみの中で少しでも近くにいたい、ひとりで静かに故人を偲びたい…。そんな方のために告別室の様子を伺えて、故郷の自然とともに静かに思いにふけることができる空間である。

故人も会葬者も風景の中に還る場である。



ポーチ



ホール



告别室



通路



待合室



収骨室

■建築概要

名称 北信保健衛生施設組合
新斎場
所在地 中野市大字豊津字大澤
3851-1、他 37 筆
建築主 北信保健衛生施設組合
地域地区 都市計画区域外
敷地面積 19,393.85 m²
建築面積 1,925.86 m²
延べ面積 2,053.16 m²
建物高さ 11.31m (GLより)
構造規模 鉄筋コンクリート造
平屋建て
一部地下1階建て
主要室 炉前ホール、告别室×2室
収骨ホール、収骨室×2室
待合室×3室、待合ホール
火葬炉数 3基

■設備概要

受電方式：3φ3W 6000V 60Hz
屋内型キュービクル
自家発電：3φ3W 200V 60Hz 250KVA
空調熱源：ヒートポンプ冷凍機
空調方式：ダクト方式、床暖房
給水方式：水道直結式
排水方式：雑排水・汚水、雨水分流

■主な外部仕上

屋根：ガリバリウム鋼板立平葺き 0.5t
軒天：ケイ酸カルシウム板 6.0d
目透かし張り EP
外壁：コンクリート打放の上無機質吹付け
材
床：御影石 400角張り 25t
一部本磨き
建具：アルミ製建具

■主な内部仕上

床：御影石パーナー仕上
タイルカーペット
壁：薄付け材仕上塗り材、
木製化粧ボード
天井：岩綿吸音板、石膏ボード EP

■設計・施工

基本設計：株式会社 第一設計
実施設計：株式会社 第一設計
施工監理：株式会社 第一設計
施工：建築 中野・中沢・高社 JV
電気 中野電気・八木・松井
JV
設備 新栄・三京 JV
炉 株式会社 宮本工業所